

トルコの状況および通貨リラの下落について

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

反政府デモの拡大を背景に、トルコ情勢が揺れています。5月31日の警官隊とデモ隊の衝突から既に2週間以上経ちますが、抗議の動きは収まる気配をみせず、6月中旬のデモ隊の強制排除をきっかけに、エルドアン首相に対するデモ隊側の反発はさらに強くなっています。

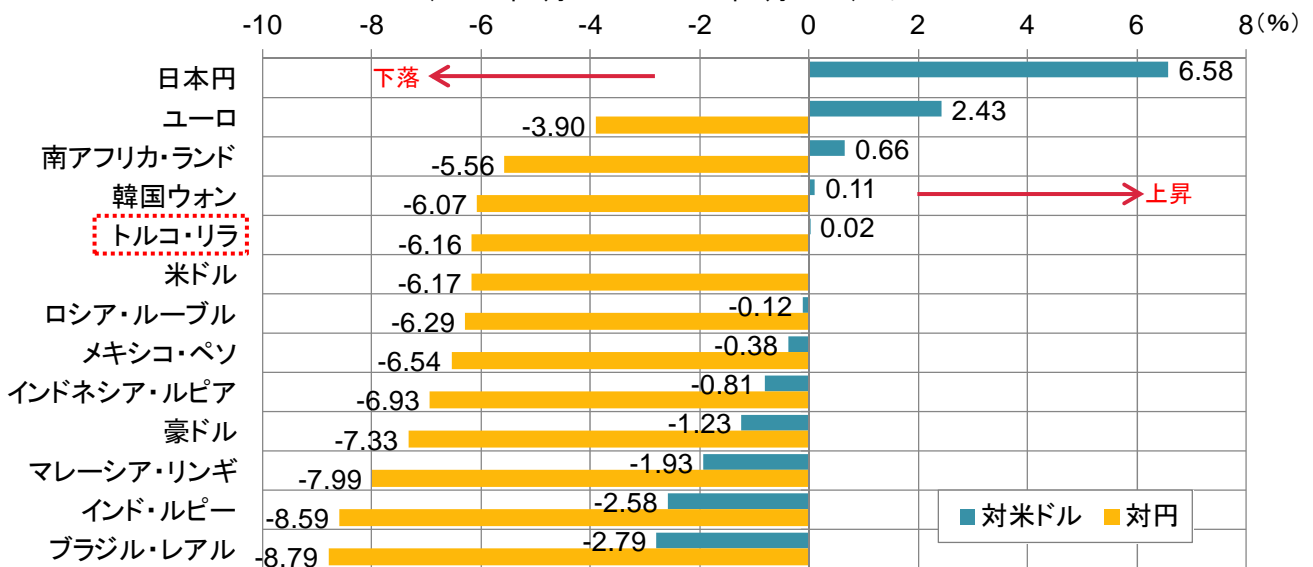
今後、デモが長期化した場合、混乱を嫌気して、海外からの資金流入が減少する可能性が考えられます。同国が抱える問題である慢性的な経常赤字を、海外からの資金流入が補っている側面があることから、同国への資金流入が減少することで、通貨の下落圧力が増大するリスクがあることには注意が必要です。

一方で、トルコへの資金流入を今後も下支えするとみられるのが、国債の信用格付の引き上げです。ムーディーズ社による5月の格上げによって、同国の自国通貨建て長期債務は主要格付会社の全てで「投資適格」とされており、今後、海外投資家による投資が活発化していくものと考えられます。ムーディーズ社の格上げの理由は、同国の経済、および財政に構造的な改善が見られたことが挙げられています。同国における、財政赤字はIMFによる2013年予想でGDP比2.2%にとどまるほか、公的債務残高も同GDP比約35%と、政府の財政は健全な状態にあるとみられます。反政府デモがどのように收拾されるのかについては注視する必要がありますが、相対的な高金利なども相俟って、投資家のトルコ国債を選好する動きは続くものと考えられます。

なお、デモが続く中、同国の通貨リラ(対円)は5月30日から6月17日までで▲6.16%と、大幅下落となりました。ただし、バーナンキFRB議長の発言などをきっかけに、為替市場では5月23日頃に急速に円高・米ドル安が進行したに加え、その間、他の新興国通貨も総じて下落していることから、デモの影響だけで下落しているわけではないようです。反政府デモの行方とともに、今後は円・米ドル相場の動きにも注目が集まります。

主要国通貨の対米ドルおよび対円の騰落率

(2013年5月30日～2013年6月17日) ※警官隊とデモ隊の衝突以降の動き



(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

* 円は対米ドルのみ、米ドルは対円のみ

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。